



**NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY**  
**GRADUATE SCHOOL**  
**GUIDE BOOK 2022**



日本体育大学 大学院教学センター  
〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1 Tel 03-5706-0915



## 学術文化発展のために

日本体育大学大学院は、  
体育及びスポーツ、教科教育並びに保健医療に関する高度の学術研究により、  
その深奥を究め、学術の応用に貢献して競技力向上、  
教科教育の実践並びに保健医療に関する研究を推進していきます。  
また、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、  
社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、  
スポーツ文化の進展、新たな教科教育学の構築並びに  
保健医療の推進と人類の友好・親善に貢献することを目的としています。

## 建学の精神

# 體育富強之基

たいいくふきょうのもとい

真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、  
体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である。

## MISSION（社会的使命：果たすべき役割、存在意義）

本学は、「建学の精神」の具現化、即ち、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」のため、次の使命を果たす。

1. 体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を通じて、人間の「活力ある身体」について、その真理を探究する。
2. 国際社会・地域社会において、先導的役割を担う有為な人材を輩出し、人類共通の願いである、幸福で豊かな社会の構築に資する。
3. スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神の実践・普及を推進し、スポーツのもつ様々な「力」を活用して、国際平和の実現に寄与する。
4. 高度な国際競技力を有し、他者の「生き方」モデルとなる優れたアスリートを育成するとともに、人間の心身の可能性（生命の輝きや身体の躍動）を追究し、活力に満ちた社会の創生に貢献する。

## VISION（目標：果たすべき姿、将来像）

本学は、その社会的使命を果たすとともに、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、かかる分野のリーディング・ユニバーシティを目指し、「教育」「研究」「社会貢献」について、次の目標を定める。

### 【教育】

人間の「活力ある身体」を熟知し、その多様性を受け容れ、地球市民として各分野で活躍できるグローバルリーダーを育成する。  
そのため、教養及び専門的知識・技能の修得、涵養はもとより、コミュニケーション力（言語・表現力）、課題発見・解決力、創造的思考力などを身につけ、複眼的な視点をもって協働・共生のできる人材を養成する。

### 【研究】

真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信する。とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決法を実践現場に還元する双方向的な研究活動を推進する。

### 【社会貢献】

あらゆるステークホルダーとの関係強化を図るとともに、国内外の諸機関との連携・協力関係を構築し、本学の教育・研究活動の成果、人的・知的財産などを還元する。これにより生涯学習の機会を提供し、地域の教育、福祉の発展に貢献するとともに、大学と社会との「知と技」の好循環を創出することにより、地域社会の力を引き出す大学として、その拠点を形成する。



スポーツ棟 エントランスホール

## [Contents]



## P08 ■ 体育学研究科 体育学専攻

設置課程：博士前期課程（2年制）  
 入学定員：37名  
 学位：修士（体育科学）、修士（体育実践学）  
 修士（コーチング科学）、修士（コーチング実践学）

設置課程：博士後期課程（3年制）  
 入学定員：12名  
 学位：博士（体育科学）  
 博士（コーチング科学）

## P16 ■ 教育学研究科 実践教科教育学専攻

設置課程：博士前期課程（2年制）  
 入学定員：20名  
 学位：修士（教育学）

設置課程：博士後期課程（3年制）  
 入学定員：5名  
 学位：博士（教育学）

## P20 ■ 保健医療学研究科 保健医療学専攻

設置課程：修士課程（2年制）  
 入学定員：8名  
 学位：修士（柔道整復学）、修士（救急災害医療学）

### 保健医療学研究科 運動器柔道整復学専攻

設置課程：博士課程（3年制）  
 入学定員：2名  
 学位：博士（柔道整復学）

### 保健医療学研究科 救急災害医療学専攻

設置課程：修士課程（3年制）  
 入学定員：2名  
 学位：博士（救急災害医療学）

## P23 大学院が定める3つのポリシー

## P29 学位論文題目（2020年度）

## P31 日体大の設備・環境

## P35 DATE（在学生数、就職状況）



## 体育学研究科

### 体育学専攻

体育及びスポーツの科学と文化の進展ならびにスポーツを通じた人類の友好・親善に貢献

体育及びスポーツに関する高度の学術研究により、その深奥を究め、学術の応用に貢献して競技力向上に関する研究を推進します。そして、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、体育及びスポーツの科学と文化の進展ならびにスポーツを通じた人類の友好・親善に貢献することを目的としています。

(体育スポーツの広い領域をカバーしているので、体育、スポーツ文化、児童スポーツ教育、スポーツマネジメント、保健医療などの学部からも進学できます。)

設置課程	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2年	3年
入学定員	37名	12名
学位	修士(体育科学) 修士(体育実践学) 修士(コーチング科学) 修士(コーチング実践学)	博士(体育科学) 博士(コーチング科学)

#### 令和4年度より学位プログラム制を導入

- ・ 学位に応じた教育プログラムの構築
- ・ 実践の場のスペシャリスト(指導者、高度職業人、学術的実務者)の養成を目的とした学位の追加(「修士(体育実践学)」、「修士(コーチング実践学)」)
- ・ 幅広い専門的教養が学べるカリキュラムをデザイン
- ・ 多様な分野の教員から指導を受けることが可能
- ・ 新たな研究領域としてスポーツマネジメントコースを設置

#### 取得できる資格・免許 博士前期課程の修了要件単位を修得することにより取得可能な資格は次のとおりです。

- ・ 中学校教諭専修免許状(保健体育)
- ・ 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
- ・ 養護教諭専修免許状

所定の授業科目の単位を修得し、博士前期課程を修了することで、専修免許状に係る所要資格を得ることができます。専修免許状の取得には、取得を希望する校種の一種免許状を取得もしくは授与要件を満たしていることが必要となります。

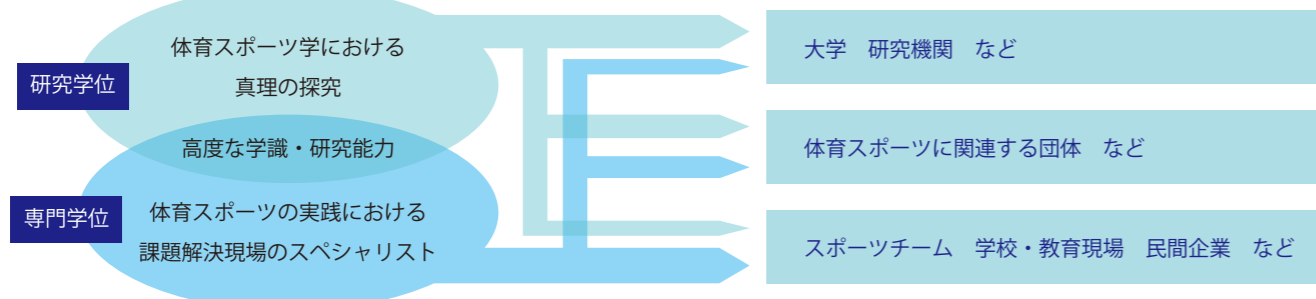
※現在(令和3年9月時点)、教職課程認定申請中であり、変更が生じる場合があります。

教育研究組織

	学位プログラム	コース	学位
博士 前期 課程	体育科学	体育スポーツ文化社会学 スポーツマネジメント トレーニング科学 健康スポーツ医科学 身体教育・健康教育	修士(体育科学) 研究学位
	体育実践学	スポーツマネジメント 身体教育・健康教育	修士(体育実践学) 専門学位
	コーチング科学		修士(コーチング科学) 研究学位
	コーチング実践学		修士(コーチング実践学) 専門学位
博士 後期 課程	体育科学	体育スポーツ文化社会学 スポーツマネジメント トレーニング科学 健康スポーツ医科学 身体教育・健康教育	博士(体育科学) 研究学位
	コーチング科学		博士(コーチング科学) 研究学位

学位について(研究学位および専門学位)

研究学位および専門学位の二つの学位系統を設定し、学生の修学・研究の目的に応じた学位プログラムを設け、それぞれの学位プログラムで異なる学位が授与されます。なお、研究学位と専門学位では、養成する人材や修了するための要件が異なります。



学位系統	説明	研究成果	学位名称	対象学位プログラム
研究学位	体育スポーツに関する幅広い学識ならびに専門知識を習得し、体育スポーツに関する高度な学識と研究能力をもった指導者・高度職業人・研究者を養成する学位プログラムの課程を修了した者に対して授与される学位	修士論文 博士論文	修士(体育科学) 修士(コーチング科学) 博士(体育科学) 博士(コーチング科学)	体育科学 コーチング科学
専門学位	修士に相応しい研究力と学識を備え、体育スポーツ現場への幅広い視野を有し、体育スポーツの実践の場における諸課題の解決、効果的なスポーツマネジメントの実践等に貢献できる指導者・高度職業人・学術的実践者を養成する学位プログラムの課程を修了した者に対して授与される学位	実践課題学期小論文 ※修士論文の代わりに、1年次後学期、2年次前期及び後学期末の計3回「実践課題学期小論文」を作成し、審査を受ける。	修士(体育実践学) 修士(コーチング実践学)	体育実践学 コーチング実践学

※専門学位が授与される学位プログラムを希望する場合は、実践課題学期小論文を作成するため、研究をすすめる上での研究フィールド(実践の場)があることが望ましい。

学位プログラム、コース概要(研究領域)

【博士前期課程】 体育科学学位プログラム

● 体育スポーツ文化社会学コース

特徴、研究領域等

スポーツ科学は今も発展し続け、スポーツによって人類の様々な夢を実現できる時代になっています。まさにスポーツは人類の文化遺産という地位を手にしつつあるといえます。しかし、人間の欲望が渦巻く現代社会において、スポーツの人的・社会的・教育価値が揺らぎつつある現象も起こっています。現代スポーツを取り巻く状況は、ただ価値を唱えているだけでは存在意義を持ち得ない地点にあります。本コースは、このようなスポーツの根本を捉え、国際化やテクノロジーの発展による新たな現代的問題への対応に積極的に取り組みます。本コースでは、多様な社会の要請に応えるためのスポーツ価値の創造者を育成することを旨とします。本コースで生み出されるスポーツ文化の知は、国際社会並びに我が国の体育現場への貢献が期待されます。このため、本コースでは、たとえば以下のような研究領域を準備しています。その意図するところは、スポーツ文化の状況認識と未来像を描くところにあります。

- ・時間軸による歴史的研究(スポーツ史)
- ・民族、地域の広がりなど空間をベースにした人類学的研究(スポーツ人類学)
- ・思想や哲学の立場からスポーツとは何かを問う研究(スポーツ哲学)
- ・都市社会や農村社会など共同体を単位とした社会学的研究(スポーツ社会学)
- ・伝統文化の観点から身体運動文化を研究する武道的研究(武道学)

進路

- ・中学校・高等学校教諭(保健体育)
- ・専門学校教諭
- ・青年海外協力隊職員
- ・スポーツ競技団体職員
- ・スポーツ関連機関職員
- ・スポーツ関係企業人
- ・後期課程への進学
- など



● トレーニング科学コース

特徴、研究領域等

現代において、人の運動能力を改善するための効果的なトレーニングとは科学的エビデンスに基づいて展開されるべきものであると広く認識されています。また、トレーニング科学は、与えられた運動負荷に対する人間の適応過程を科学的に分析し、健康や体育・スポーツへの応用を意図した専門領域です。本コースでは、主としてスポーツパフォーマンスおよび競技力の向上を目的としたトレーニング科学を学びます。スポーツパフォーマンスが心・技・体の観点から成り立つことに合わせて、心理学、生理学、バイオメカニクス、トレーニング学、アスレティックトレーニング学、栄養学を学び、パフォーマンス向上に関する総合的知力を身に付け、実践的研究・客観的指導を拡大・深化させることのできる学識と研究能力をもった専門家を育成します。机上理論を現場で検証するのではなく現場で生じる課題を敏感に、かつ的確にとらえ、客観的方法で問題解決を図ることが出来る専門家、研究者の育成を意図し、以下のカリキュラムを用意しています。

- ・体力(筋力、筋パワー、持久力)の向上(トレーニング学、スポーツ生理学)
- ・動作、技術(skill)の向上と戦術(スポーツバイオメカニクス)
- ・心理、および心理生理学的アプローチ(スポーツ心理学)
- ・栄養摂取、コンディショニング(スポーツ栄養学)
- ・障害予防・現場復帰のトレーニングとコンディショニング(アスレティックトレーニング学)
- ・様々な競技力向上サポート実践について(競技力向上サポート論)

進路

- ・中学校・高等学校教諭(保健体育)
- ・専門学校教諭
- ・JICA 海外協力隊職員
- ・スポーツ指導者
- ・アスレティックトレーナー
- ・スポーツ競技団体職員
- ・スポーツ関連機関職員
- ・スポーツクラブ指導者
- ・スポーツ関係企業人
- ・医療機関職員
- ・後期課程への進学
- など



● 健康スポーツ医科学コース

特徴、研究領域等

スポーツをすることによる身体的な変化は運動器、循環器、呼吸器など機能的改善をもたらす疾患予防あるいは健康増進の獲得につながると広く認識されています。あるいはスポーツ現場においてしばしば発生するスポーツ損傷の発生メカニズムおよびその修復の理解は高いパフォーマンスを発揮するうえで重要です。これらは本コースにおける学びの主たる対象になります。ただし上に述べたようなスポーツが身体に与える影響は疫学的な調査研究に基づくものが多いのが現状です。現代社会においては医療をはじめとするあらゆる分野において科学的手続きによって得られたデータに基づくエビデンスが求められます。スポーツが個体に及ぼす影響を理解するためには個体レベルでのヒトを対象とした医学・生理学および生物学をはじめとする自然科学一般をもとにした科学をベースとした学びおよび理解が重要です。

- ・大規模コホートなどを対象とした疫学調査に基づく健康づくりなどの理解(運動衛生学特論)
- ・身体活動実施による内科系疾病予防の理解(スポーツ医学特論)
- ・身体活動実施による運動器、呼吸器、循環器などの変化とその理解およびその加齢変化(運動生理学特論、発育発達特論、機能解剖学特論)
- ・個体レベルでの身体活動適応の分子レベルでの理解(分子運動生理学特論)
- ・特にアスリートに頻発する損傷とその理解(スポーツ損傷特論)

進路

- ・中学校・高等学校教諭(保健体育)
- ・養護教諭
- ・専門学校教諭
- ・JICA 海外協力隊職員
- ・スポーツ指導者
- ・スポーツ競技団体職員
- ・スポーツ関連機関職員
- ・スポーツクラブ指導者
- ・スポーツ関係企業人
- ・医療機関職員
- ・後期課程への進学
- など



## 学位プログラム、コース概要（研究領域）

### 【博士前期課程】 体育科学学位プログラム／体育実践学学位プログラム

#### ● 身体教育・健康教育コース

特徴、研究領域等

あらゆる分野で証拠に基づく実践が求められています。このことは、身体教育・健康教育分野においても例外ではありません。加えて、教育現場からは実践力を有する保健体育教諭、養護教諭の養成が求められています。そのため、本コースでは、身体教育学、体育科教育学、健康教育学、保健科教育学、教育生理学、学校保健学、公衆衛生学、養護教諭学、インクルーシブ体育、教師教育学、教育心理学、学校制度学等といった研究領域をカバーし、その基礎から応用まで幅広くかつ高度に学究できるカリキュラムを用意しています。中でも、1・2年を通して実施される「プラクティカム」では、学外の小学校、中学校、高等学校等における実習を通して、子ども理解を深めつつ、保健体育教諭や養護教諭としての実践力を獲得することを目指します。

なお、本コースには、修士（体育科学）の取得を目指す学位プログラムと修士（体育実践学）の取得を目指す学位プログラムが設定されており、それぞれの研究成果を前者は修士論文、後者は実践課題学期小論文としてまとめます。想定される主な研究課題には、以下のものがあります。

・身体教育・健康教育の歴史、目的、方法、評価等に関する研究  
 ・身体教育、健康教育実践の効果検証  
 ・養護教諭の歴史、職務等に関する研究  
 ・養護教諭実践の効果検証  
 ・子どもを取り巻くからだ、心、体力、健康、生活等に関する研究

進 路

・中学校・高等学校教諭（保健体育）  
 ・養護教諭  
 ・専門学校教諭  
 ・教育関連企業  
 ・後期課程への進学・など

#### ● スポーツマネジメントコース

特徴、研究領域等

現代社会がスポーツに求めるものは、増々多様で高度になっています。このため、近年ではスポーツ特有のマネジメントやスポーツによる社会課題の解決のためのマネジメントなどに関する研究が求められるとともに、スポーツマネジメントの各種現場では高度なスポーツマネジメント能力が求められています。

ヨーロッパや北米においては、学部卒業生だけではなく既にスポーツマネジメント関連の職にある実務者が、自身の論理的思考や実践力、リーダーシップなどを高めるためにスポーツマネジメント大学院やビジネススクールに入学するのはこのためです。我が国でも同様の傾向が見られ、今後この傾向は一層強くなると考えられます。

このため、本コースでは、例えば、以下のようなスポーツマネジメントを対象とした最新のスポーツマネジメント研究の理論と実践に有益なカリキュラムを準備しています。

なお、本コースには、修士（体育科学）の取得を目指す学位プログラムと修士（体育実践学）の取得を目指す学位プログラムが設定されており、それぞれの研究成果を前者は修士論文、後者は実践課題学期小論文としてまとめます。

・政府や中央競技団体などのトップスポーツのマネジメント。  
 ・プロリーグやメディアスポーツなどのマネジメント。  
 ・スポーツイベント、スポーツ用品・ヘルスケア、スポーツ施設（スタジアム・アリーナ）など各種ビジネスのマネジメント。

進 路

・スポーツ関係企業人  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツクラブ職員  
 ・政府・地方自治体職員  
 ・健康、スポーツ関連機関職員  
 ・中学校・高等学校教諭（保健体育）  
 ・専門学校教諭  
 ・JICA 海外協力隊職員  
 ・後期課程への進学 など

### 【博士前期課程】 コーチング科学学位プログラム

特徴、研究領域等

スポーツがより高度な専門性を有することとなった昨今において、科学的なコーチングの重要性が求められています。コーチング科学学位プログラムでは、トップアスリートを指導するコーチを対象としたアクションリサーチによってトップアスリートコーチの特徴を明らかにすること、競技特性や競技動作をバイオメカニクス的かつ生理学的な視点から分析し、得られた結果から最適な動作モデルやコンディショニング法を構築することによって科学的データをスポーツ現場でのコーチングに還元することを目指したカリキュラムを準備しています。また、コーチとしての実践力も身に付けるための科目として、コーチング学演習とコーチング現場を想定したプラクティカムが履修出来ます。

以下に個人競技のアスリートとしてハイパフォーマンスの獲得を目指す傍ら、科学的データをコーチング現場に還元することを目的として、バイオメカニクス的手法を用いて研究を行う院生の履修モデルを示します。

・大学教員  
 ・中学校、高等学校教諭（保健体育）  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・医療機関職員  
 ・後期課程への進学 など

1 年次前学期には様々なスポーツ動作におけるバイオメカニクスの基礎と応用に関して理解を深めるとともに、ハイパフォーマンス獲得のためのアスリートの体力学やスポーツにおける戦術の立て方を学びます。1 年次後学期には個人スポーツ（記録系競技や採点系競技）におけるコーチングとそれぞれの競技におけるパフォーマンスの分析法について理解を深めます。また、2 年間を通したコーチング学演習と1 年次におけるプラクティカムによってコーチングの実践力も身に付けるとともに、2 年次前学期には英語でのコミュニケーション法について学びます。このような履修モデルにおいてコーチング科学の専門的知識と高度な指導力を身に付けるとともに、修士論文を執筆して修士（コーチング科学）の取得を目指します。

進 路

・中学校・高等学校教諭（保健体育）  
 ・養護教諭  
 ・専門学校教諭  
 ・JICA 海外協力隊職員  
 ・スポーツ指導者  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツクラブ指導者  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・医療機関職員  
 ・後期課程への進学 など

### 【博士前期課程】 コーチング実践学学位プログラム

特徴、研究領域等

近年、アスリートが主体となり、ハイパフォーマンスの獲得とともに、スポーツ活動を通した包括的な人間的成長を可能にするアスリートセンタードコーチングの重要性が指摘されています。このような社会的背景の中、さらに専門的かつ高度な知識と実践力を兼ね備えたコーチングができる人材が求められています。コーチング実践学学位プログラムでは、体育スポーツ科学の専門的な知識と科学的根拠に基づいた指導力を併せ持つコーチデベロッパーの育成や、アスリートの競技レベルに応じた的確なコーチングが可能な高度職業人としてのプロフェッショナルコーチを育成するためのカリキュラムを準備しています。中でも、コーチング実践学学位プログラムのカリキュラムの特徴として、実践的なコーチングの基礎を学ぶコーチング学演習とコーチング現場を想定したプラクティカムが挙げられます。以下にチームスポーツにおけるトップチームのコーチを目指す（実際にコーチをしている場合も含む）院生の履修モデルを示します。

1 年次前学期にはチームスポーツを中心としたスポーツにおける戦術の立て方を学ぶとともに、スポーツ現場で想定される様々な危機管理について理解を深めます。1 年次後学期にはチームスポーツにおけるコーチングとそれぞれの競技におけるパフォーマンスの分析法について学びます。さらに、実践課題学期小論文について指導を受けます。また、2 年間を通したコーチング学演習とプラクティカムによって高度なコーチングの実践力を身に付けるとともに、2 年次前学期には外国人選手などと意思疎通を図るためのコミュニケーション方法を学びます。このような履修モデルにおいてコーチング実践学の専門的知識と高度な指導力を身に付けるとともに、定められた実践課題学期小論文を提出することによって修士（コーチング実践学）の取得を目指します。

進 路

・スポーツコーチ  
 ・コーチデベロッパー  
 ・アナリスト  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・JICA 海外協力隊職員  
 ・中学校・高等学校教諭（保健体育）  
 ・後期課程への進学 など

## 学位プログラム、コース概要（研究領域）

### 【博士後期課程】 体育科学学位プログラム

#### ● 体育スポーツ文化社会学コース

特徴、研究領域等

スポーツ科学は今も発展し続け、スポーツによって人類の様々な夢を実現できる時代になっています。まさにスポーツは人類の文化遺産という地位を手にしつつあるといえます。しかし、人間の欲望が渦巻く現代社会において、スポーツの人間的・社会的・教育価値が揺らぎつつある現象も起こっています。現代スポーツを取り巻く状況は、ただ価値を唱えているだけでは存在意義を持ち得ない地点にあります。本コースは、このようなスポーツの根本を捉え、国際化やテクノロジーの発展による新たな現代的問題への対応に積極的に取り組みます。本コースでは、多様な社会の要請に応えるためのスポーツ価値の創造者を育成することを目指します。このため、本コースでは指導教員の下、国内外の学会での発表並びに論文投稿を行い、博士論文の完成を目指します。このような研究成果の公表によって、自立した研究者としての国際社会並びに我が国の体育スポーツ学術研究への貢献が期待されます。研究領域としては以下のものが挙げられます。

・時間軸による歴史的研究（スポーツ史）  
 ・民族・地域の広がりなど空間をベースにした人類学的研究（スポーツ人類学）  
 ・思想や哲学の立場からスポーツとは何かを問う研究（スポーツ哲学）  
 ・都市社会や農村社会など共同体を単位とした社会学的研究（スポーツ社会学）

進 路

・大学教員  
 ・中学校、高等学校教諭（保健体育）  
 ・専門学校教諭  
 ・スポーツ指導者  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・ジャーナリスト  
 など

#### ● トレーニング科学コース

特徴、研究領域等

現代において、人の運動能力を改善するための効果的なトレーニングとは科学的エビデンスに基づいて展開されるべきものであると広く認識されています。また、トレーニング科学は、与えられた運動負荷に対する人間の適応過程を科学的に分析し、健康や体育・スポーツへの応用を意図した専門領域です。本コースでは、主としてスポーツパフォーマンスおよび競技力の向上を目的としたトレーニング科学を学びます。スポーツパフォーマンスが心・技・体の観点から成り立つことに合わせて、心理学、生理学、バイオメカニクス、トレーニング学、アスレティックトレーニング学、栄養学を学び、パフォーマンス向上に関する総合的知力を身に着け、実践的研究・客観的指導を拡大・深化させることのできる学識と研究能力をもった専門家を育成します。机上理論を現場で検証するのではなく現場で生じる課題を敏感に、かつ的確にとらえ、客観的方法で問題解決を図ることができる専門家、研究者の育成を意図し、以下のカリキュラムを用意しています。

・体力（筋力、筋パワー、持久力）の向上（トレーニング学、スポーツ生理学）  
 ・心理、および心理生理的アプローチ（スポーツ心理学）  
 ・動作、技術（skill）の向上と戦術（スポーツバイオメカニクス）  
 ・栄養摂取、コンディショニング（スポーツ栄養学）  
 ・障害予防・現場復帰のトレーニングとコンディショニング（アスレティックトレーニング学）  
 ・様々な競技力向上サポート実践について（競技力向上サポート論）

進 路

・中学校・高等学校教諭（保健体育）  
 ・専門学校教諭  
 ・JICA 海外協力隊職員  
 ・スポーツ指導者  
 ・アスレティックトレーナー  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツクラブ指導者  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・医療機関職員  
 ・後期課程への進学 など

#### ● 健康スポーツ医科学コース

特徴、研究領域等

スポーツをすることによる身体的な変化は運動器、循環器、呼吸器など機能的改善をもたらし疾病予防あるいは健康増進の獲得につながると広く認識されています。あるいはスポーツ現場においてしばしば発生するスポーツ損傷の発生メカニズムおよびその修復の理解は高いパフォーマンスを発揮するうえで重要です。これらは本コースにおける学びの主たる対象になります。ただし上に述べたようなスポーツが身体に与える影響は疫学的な調査研究に基づくものが多いのが現状です。現代社会においては医療をはじめとするあらゆる分野において科学的手続きによって得られたデータに基づくエビデンスが求められます。スポーツが個体に及ぼす影響を理解するためには個体レベルでのヒトを対象とした医学・生理学および生物学をはじめとする自然科学一般をもとにした科学をベースとした学びおよび理解が重要です。

・大規模コホートなどを対象とした疫学調査に基づく健康づくりなどの理解（運動衛生学特論）  
 ・身体活動実施による内科系疾病予防の理解（スポーツ医学特論）  
 ・身体活動実施による運動器、呼吸器、循環器などの変化とその理解およびその加齢変化（運動生理学特論、発育発達特論、機能解剖学特論）  
 ・個体レベルでの身体活動適応の分子レベルでの理解（分子運動生理学特論）  
 ・特にアスリートに頻発する損傷とその理解（スポーツ損傷特論）

進 路

・大学教員  
 ・中学校、高等学校教諭（保健体育）  
 ・養護教諭  
 ・専門学校教諭  
 ・スポーツ指導者  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・医療機関職員  
 など

#### ● 身体教育・健康教育コース

特徴、研究領域等

あらゆる分野で証拠に基づく実践が求められています。このことは、身体教育・健康教育分野においても例外ではありません。加えて、教育現場からは実践力を有する保健体育教諭、養護教諭の養成が求められています。そのため、本コースでは、身体教育学、体育科教育学、健康教育学、保健科教育学、教育生理学、学校保健学、公衆衛生学、養護教諭学、インクルーシブ体育、教師教育学、教育心理学、学校制度学等といった研究領域をカバーし、その基礎から応用まで幅広くかつ高度に学究できるカリキュラムを用意しています。また、これらの学びを通して、ときには保育・教育現場との連絡や調整等も回り、身体教育・健康教育分野における研究を企画・実施し、得られたデータを科学的な手続きに基づいて分析、公表する能力の習得を目指します。想定される主な研究課題には、以下のものがあります。

・身体教育・健康教育の歴史、目的、方法、評価等に関する研究  
 ・身体教育・健康教育実践の効果検証  
 ・養護教諭の歴史、職務等に関する研究  
 ・養護教諭実践の効果検証  
 ・子どもを取り巻くからだ、心、体力、健康、生活等に関する研究

進 路

・大学教員  
 ・中学校、高等学校教諭（保健体育）  
 ・養護教諭  
 ・専門学校教諭  
 ・教育関連企業人  
 など

### 【博士後期課程】 コーチング科学学位プログラム

特徴、研究領域等

様々なスポーツにおける国際的な競技レベルの向上にともない、科学的データをスポーツ現場でのコーチングに還元する重要性が求められています。コーチング科学学位プログラムでは、競技特性や競技動作をバイオメカニクス的かつ生理学的な手法を用いて解明し、一般化できる理論を構築する量的研究やトップアスリートコーチなどを対象としたアクションリサーチを用いて得られた事象を解明し、新しい理論を構築する質的研究を行うことによって、コーチング学分野の先駆的な研究を自立して遂行できる研究者と豊かな学識に裏打ちされたコーチデベロッパーの養成を目指したカリキュラムを準備しています。

1 年次にはコーチデベロッパー養成のためのコーチ育成論とコーチング学分野における研究法を学びます。また、3 年間を通して博士論文作成のための研究の進め方と論文の執筆について指導を受けます。

このような科目の履修において、コーチング学の理論と実践の両面から専門的知識を獲得するとともに、コーチング学の研究法を学ぶことによって博士（コーチング科学）の取得を目指します。

進 路

・大学教員  
 ・コーチデベロッパー  
 ・スポーツ関連研究機関職員  
 ・スポーツ競技団体職員  
 ・スポーツ関連機関職員  
 ・スポーツ関係企業人  
 ・スポーツコーチ  
 ・中学校、高等学校教諭（保健体育）  
 ・ジャーナリスト  
 など







## 教育学研究科

### 実践教科教育学専攻

学び続け、絶えることなく授業改善を行う教師を養成

実践教科教育学専攻は、教科教育に関する高度の学術研究により、その深奥を究め、学術の応用に貢献して実践的な教育力及び学び続ける教師に関する研究を推進するとともに、絶えることなく授業改善を行う教師の養成を目標とし、教科の共通性を基底に各教科の固有性を保持する新しい教科教育学の構築と人類の友好・親善に貢献することを目的としています。

設置課程	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2年	3年
入学定員	20名	5名
学位	修士(教育学)	修士(教育学)

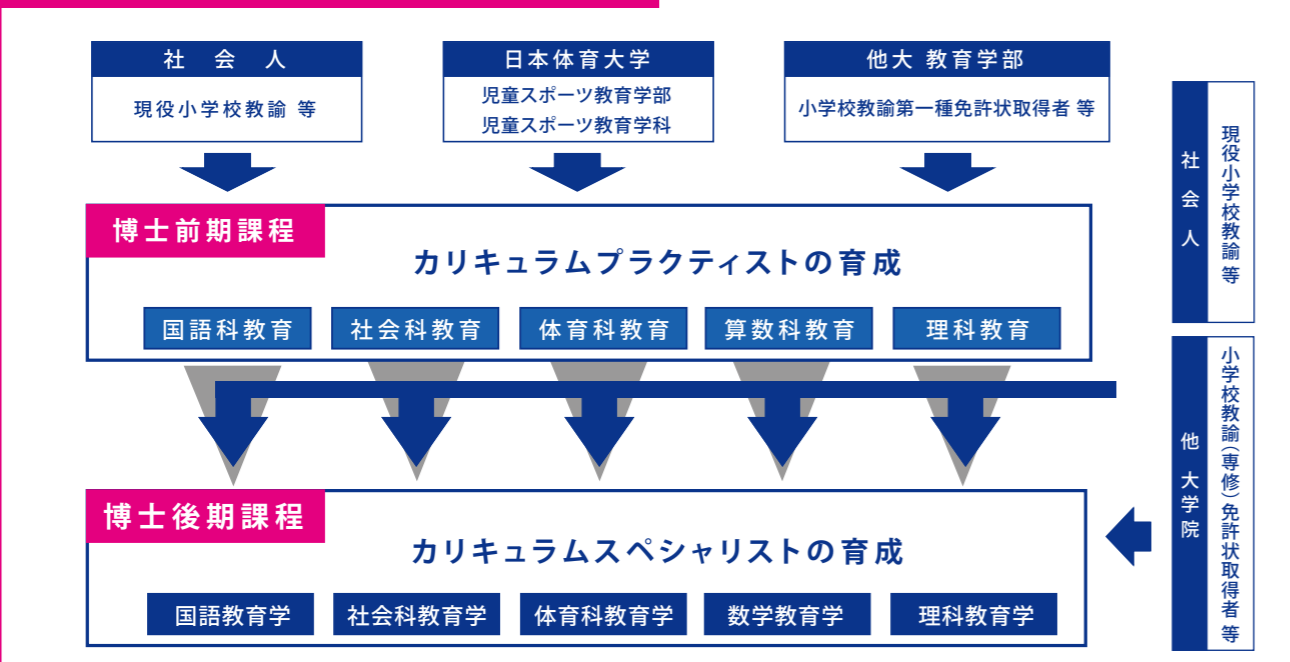
#### 求める学生像

博士前期課程 前期課程においては、実践的指導力を高め、社会の急速な進展の中、教員としての探究力を有し、知識や技能の刷新のために常に「学び続ける教師」や理論的・学術的な裏付けに基づく「実践的な指導力」を追究する資質・能力をもった指導者を目指そうとする者を求めます。

・取得できる免許状(博士前期課程) 小学校教諭 専修免許状 (1種免許状を既に取得している者に限る)

博士後期課程 後期課程においては、世界的視野で各教科の教育課程を捉え、それらをもとにした指導についての実践的指導力及び検証力を高めるとともに、各教科の教育理論と学習指導の在り方について新たな研究課題を見出す意欲を有し、学術的根拠をもって「実践的な指導力」及び「論理構成能力」を高めていく資質・能力をもった指導者を目指そうとする者を求めます。

### 教育学研究科 実践教科教育学専攻 関係図



これまでの小学校の教科教育においては、学問分野の総合的な知識内容を発達段階や学習者の理解力に応じて選別、配列、組織化することを重視してきました。しかし、学問分野の進展、高度化、学習者集団の一層の多様化、そして、急激に変化する社会からの要請、これらに対応した「生きる力」を育むための教育課程を構想し実践することが求められているにも関わらず、そのことが難しくなってきました。そこで本研究科では、博士前期課程においては高度の専門的職業人を養成し、後期課程では様々な課題に応えるような研究者を養成します。また現職の教員に対して時代の変化に対応しうる新情報を提供するために、昼夜開講の研究科として開設しています。これにより教員免許10年更新制を補充することができるとともに、本学が立地するキャンパスの利便性を活かして首都圏の小学校現場等に勤務する現職教員に格好の学び(再教育)の場を提供できるようになりました。学部教育での小学校教員養成課程の発展として、各教科間の共通性と固有性を重視し、高度な教員養成の在り方及びそのことに関わる研究的力量をもった人材育成を追求していきます。



#### 博士前期課程の特徴

教科とは何か、なぜ教科を区分するのかなどを、学習する子供の視点に立ち、「何ができるようになるか」、及び「教科の本質とは何か」という、教科の存在基盤や教科の共通性と固有性という観点から学習指導を構想できる人材(カリキュラムプラクティスト)の育成を行います。

例えば、各教科は、言語や記号、社会事象や自然事象などの異なる対象をもとに、異なる認識方法が存在しています。各教科の固有性という側面です。対して、各教科には、言語や記号、社会、自然などの対象への働きかけ方(①)、各教科で対象に働きかけることによって獲得する知識・技能や能力、態度、及び人間性などの獲得するもの(②)があります。これら①と②から教科を捉えることができるということが教科の共通性という側面です。このような視点で教科を統一的に捉えることにより、教科の本質や教科で育成する人間性がより一層明確になるといえます。また、このような捉え方を育むために、前期課程カリキュラムでは、特に教科基盤科目と教科共通科目を位置づけています。

今まで述べてきた考え方のもとに、前期課程では小学校教員養成を基盤として、教科の共通性を基盤に、教科の存在基盤やその区分などから各教科の本質である固有性を捉える、という新しい見地から学習指導を構想し展開できる人材(カリキュラムプラクティスト)を養成します。

#### 博士後期課程の特徴

博士後期課程では、世界的視野で各教科における教育課程に関する理論と具体的な学習指導とを往還させ、それらにある各教科の共通性と固有性をふまえ、学術的研究・実践的研究をもとにした学習指導の課題を見出し、また、受け止め、それらに関する学術的な研究、そして教育実践への豊かな示唆を引き出す研究ができる人材(カリキュラムスペシャリスト)を育成します。

### 教育学研究科 実践教科教育学専攻

#### 【博士前期課程】

科目区分	授業科目の名称				
教科基盤科目	教科教育特論	教科教育研究法	教科目標論		
	教科学習指導論	教科評価論			
教科共通科目	国語科実践研究	社会科実践研究	算数科実践研究		
	理科実践研究	体育科実践研究			
教科選択科目	国語	国語科特別研究Ⅰ	国語科特別研究Ⅱ	国語科学習内容構成セミナー	国語科教材開発セミナー
	社会	社会科特別研究Ⅰ	社会科特別研究Ⅱ	社会科学習内容構成セミナー	社会科教材開発セミナー
	算数	算数科特別研究Ⅰ	算数科特別研究Ⅱ	算数科学習内容構成セミナー	算数科教材開発セミナー
	理科	理科特別研究Ⅰ	理科特別研究Ⅱ	理科学習内容構成セミナー	理科教材開発セミナー
	体育	体育科特別研究Ⅰ	体育科特別研究Ⅱ	体育科学習内容構成セミナー	体育科教材開発セミナー

## Education

#### 【博士後期課程】

科目区分	授業科目の名称			
共通分野	カリキュラム開発講義(国語教育学)	カリキュラム開発講義(社会科教育学)	カリキュラム開発講義(数学教育学)	
	カリキュラム開発講義(理科教育学)	カリキュラム開発講義(体育科教育学)		
専修分野	国語	カリキュラム開発特別研究Ⅰ(国語教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅱ(国語教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅲ(国語教育学)
	社会	カリキュラム開発特別研究Ⅰ(社会科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅱ(社会科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅲ(社会科教育学)
	数学	カリキュラム開発特別研究Ⅰ(数学教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅱ(数学教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅲ(数学教育学)
	理科	カリキュラム開発特別研究Ⅰ(理科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅱ(理科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅲ(理科教育学)
	体育	カリキュラム開発特別研究Ⅰ(体育科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅱ(体育科教育学)	カリキュラム開発特別研究Ⅲ(体育科教育学)

#### 授業実施方法

大学院設置基準第14条に定める教育方針の特例を適用し、土、日曜日や連休等を利用して集中的に授業を実施します。  
※基本的に平日には授業を実施しません。

2022年度研究指導教員及び研究指導領域については、  
本学のWEBサイトからご確認ください。▶▶▶▶▶▶▶▶





## 保健医療学研究科

回復医療の教育・研究、救命処置と災害医療の研究・教育できる人材を育成

### 保健医療学専攻

修士課程 (入学定員 / 8名)  
 ・高度実践柔道整復師コース  
   修士(柔道整復学)  
 ・救急災害医療学コース  
   修士(救急災害医療学)

### 運動器柔道整復学専攻

博士課程 (入学定員 / 2名)  
 博士(柔道整復学)

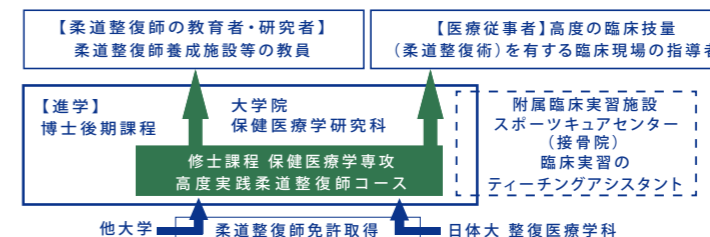
### 救急災害医療学専攻

博士課程 (入学定員 / 2名)  
 博士(救急災害医療学)

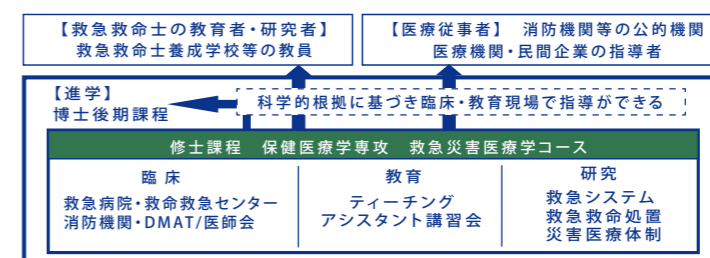
### 設置の趣旨および必要性

本学は一貫してスポーツを通してすべての人々の願いである「心身の健康」を育み、かつ世界レベルの優秀な競技者・指導者を育成することを追求し続けていました。そして2014年には「保健医療学部」を開設し、保健医療の立場からも生命と健康に係わる取り組みを開始しました。保健医療学部の教育理念は「深く保健、医療、福祉に関する専門的な学問の教授・研究、及び職業と社会生活に必要な教育を施し、高い倫理観に基づく人間形成を重んじ、国民の保健衛生に寄与する」ことです。この理念と本学のこれまでの実績を踏まえ、保健・医療・福祉を包括する専門学部を創設し、高度な専門知識・技術と、豊かな人間性、高い倫理観を備えた質の高い医療人を育成することは高齢社会のニーズに合致しています。以上のことから、保健医療学部を基礎とする「保健医療学研究科修士課程」を設置します。

### ● 高度実践柔道整復師コース



### ● 救急災害医療学コース



保健医療学専攻関係図



# 3つの方針

アドミッション・ポリシー  
(入学者受入の方針)

カリキュラム・ポリシー  
(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシー  
(卒業認定・学位授与の方針)

## 体育学研究科が定める3つの方針

### 博士前期課程

#### 体育科学学位プログラム

##### ◀育成する人物像▶

体育スポーツに関する幅広い学識ならびに専門知識を習得し、体育スポーツの高度な指導力を有する指導者ならびに体育スポーツに関する専門知識と研究能力をもった高度職業人を養成する。

##### ◀養成される人材例▶

高度な指導能力を有する指導者、中学校・高等学校教員

スポーツ・武道・舞踊に関する高度な能力を有する中学校・高等学校教員

スポーツマネジメントに係わる高度職業人

体育・健康・スポーツに関する基礎的知識をもった高度職業人、ジャーナリストなど

体育スポーツ科学の研究者

#### ◎入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者・研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独自のあるいは卓越した体育スポーツ科学あるいはその指導を実施するという意欲と能力をもつ者。なお、基礎英語力を有していることが望ましい。

#### ◎教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 体育学研究科共通科目（必修、10単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。
- ② 基礎科目（選択必修、6単位）：各コース（体育スポーツ文化社会、スポーツマネジメント、トレーニング科学、健康スポーツ医科学、身体教育・健康教育）の学識と専門的知識、研究法を学び、基礎的能力を身につける。
- ③ 他コースを含む展開科目（選択、10単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいは後期課程に進学を希望する場合は専攻コース（学領域）の専門性をより高める（縦の発展）。
- ④ 研究指導科目（必修、4単位）：研究テーマに特化した研究法、学会や学術誌への発表方法などを学び、修士論文の作成に向けた研究指導を受ける。

#### ◎学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育科学）の学位を授与する。なお、修士論文の審査基準については別に記載する。

- ・体育スポーツ科学に関する幅広い学識
- ・体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識
- ・体育スポーツの指導者としての基礎的能力
- ・体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

### 体育実践学学位プログラム

##### ◀育成する人物像▶

体育スポーツに関する専門知識ならびに体育スポーツ現場への幅広い視野を有し、体育スポーツの高度な指導力を有する指導者ならびに高度職業人を養成する。

##### ◀養成される人材例▶

高度な指導能力を有する中学校・高等学校教諭、養護教諭

スポーツマネジメントに係わる高度職業人

体育・健康・スポーツに関する専門的知識を有する高度職業人、ジャーナリストなど

#### ◎入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者、政策立案者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独自ので卓越した体育スポーツの指導を実施するという意欲と能力をもつ者。なお、体育スポーツの指導者あるいは政策立案者としての経験を2年以上有し、「実践課題学期小論文」作成に対応できる現場を有していることが望ましい。

#### ◎教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 体育学研究科共通科目（必修、10単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。
- ② 基礎科目（選択必修、6単位）：スポーツマネジメントコースあるいは身体教育・健康教育学コースの学識と専門的知識、研究法を学び、基礎的能力を身につける。
- ③ 他コースを含む展開科目（選択、10単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはスポーツマネジメント、身体教育・健康教育学に関するより高度な知識や能力を身につける（縦の発展）。
- ④ 研究指導科目（必修、4単位）：上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場における政策や実践に関する報告等を「実践課題学期小論文」としてまとめて発表し、審査を受けるとともに、学会や学術誌への発表方法などについても学ぶ。なお、「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の審査は原則として、Ⅰは1年次後期、Ⅱは2年次前期、Ⅲは2年次後期の学期末に行う。

#### ◎学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学した上で、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、「実践課題学期小論文」の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育実践学）の学位を授与する。

- ・体育学に関する幅広い学識と研究基礎力
- ・体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての高度な専門的知識
- ・体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての実践力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

#### コーチング科学学位プログラム

##### ◀育成する人物像▶

国際的な幅広い視野と柔軟な思考を兼備し、科学的根拠に基づいたコーチング学研究を推進するとともに、コーチ育成論を含むコーチング学研究の新たな分野を開拓できる能力を兼ね備えた人材を養成する。

##### ◀養成される人材例▶

高度なコーチング能力やマネジメン能力を有するスポーツ指導者

スポーツ・武道・舞踊に関する高度なコーチング能力を有する教員

競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト

コーチ育成者 (Coach developer)

コーチング学の研究者

#### ◎入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者・研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独自のコーチングや卓越したコーチングを実施する scholastic coach として活動していく意欲と能力をもつ者。なお、基礎英語力を有していることが望ましい。

#### ◎教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 体育科学研究科共通科目（必修、10単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。
- ② 基礎科目（選択必修、8単位）：コーチングに関する学識と専門的知識、コーチング学の研究法を学び、コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力を身につける。
- ③ 他コースを含む展開科目（選択、8単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはコーチング学に関するより高度な知識やコーチ育成に関する能力を身につける（縦の発展）。
- ④ 研究指導科目（必修、4単位）：研究テーマに特化した研究法、学会や学術誌への発表法などを学び、修士論文の作成に向けた研究指導を受ける。

#### ◎学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング科学）の学位を授与する。なお、修士論文の審査基準については別に記載する。

- ・体育スポーツ科学に関する幅広い学識
- ・コーチング学に関する学識と専門的知識
- ・コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力
- ・体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

### コーチング実践学学位プログラム

##### ◀育成する人物像▶

コーチング領域に関する幅広い学識に基づいた研究能力と高度で専門的なコーチング実践力によってスポーツ現場での指導を行える能力とともに、高いコミュニケーション力と交渉力をもち現場の課題解決能力を兼ね備えたコーチやコーチデベロッパーを養成する。

##### ◀養成される人材例▶

高度なコーチング能力やマネジメン能力を有するスポーツコーチ・指導者、中学校・高等学校教員

競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト

コーチ育成者 (Coach developer)

#### ◎入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者・研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独自のコーチングや卓越したコーチングを実施する scholastic coach として活動していく意欲と能力をもつ者。

専門学位を志望するものは、①1年以上の体育スポーツの指導経験があり、②「実践課題学期小論文」の作成に対応できる指導現場を有する、③高度な競技力を有することが望ましい。

#### ◎教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 体育科学研究科共通科目（必修、10単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。
- ② 基礎科目（選択必修、8単位）：コーチングに関する学識と専門的知識、コーチング学の研究法を学び、コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力を身につける。
- ③ 他コースを含む展開科目（選択、8単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはコーチング学に関するより高度な知識やコーチ育成に関する能力を身につける（縦の発展）。
- ④ 研究指導科目（必修、4単位）：上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場におけるコーチング実践報告や指導法（コーチング法）試案等を「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」にまとめて発表し、審査を受ける。なお、審査は原則として、Ⅰは1年次後期、Ⅱは2年次前期、Ⅲは2年次後期の学期末に行う。

#### ◎学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、実践課題学期小論文（仮称）の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング実践学）の学位を授与する。

- ・体育学に関する幅広い学識と研究基礎力
- ・コーチング実践に関する専門的知識と技能
- ・コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

# 3つの方針

アドミッション・ポリシー  
(入学受入の方針)

カリキュラム・ポリシー  
(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシー  
(卒業認定・学位授与の方針)

## 体育学研究科が定める3つの方針

### 博士後期課程

#### 体育科学学位プログラム

##### 《育成する人物像》

体育スポーツに関する幅広い学識と高度な専門的知識を有し、自立した教育者・研究者として高度の学術研究により国際社会に貢献できる人材を養成する。

##### 《養成される人材例》

高度な指導力やマネジメント能力を有する体育スポーツ指導者

体育スポーツ科学の研究者、大学教員

体育スポーツ指導者の育成者、大学教員

#### ◎ 入学受入の方針 (アドミッション・ポリシー)

体育スポーツ科学の研究と実践を通して、体育スポーツ科学およびその指導方法等に関する新しい知見を発信する意欲と能力をもつ者で、外国語運用能力を有している者。

#### ◎ 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 研究科共通科目 (必修、2単位)：自己の研究テーマをより集中的に実施し、発展させることを目的とし、より高度な研究報告演習 (英語によるものを推奨) を行なう。
- ② 専修科目 (選択必修、4単位)：各コースの研究法を学ぶとともに、各コースの高度な専門的知識を身につける。
- ③ 研究指導科目 (必修、6単位)：研究成果の国内外学術誌への投稿および掲載並びに博士論文の作成に向けた特別研究指導を受ける。

#### ◎ 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに博士 (体育科学) の学位を授与する。なお、博士論文の審査基準については別に記載。

- ・体育スポーツ科学に関する幅広く、かつ高度な学識
- ・体育スポーツ科学に関する高度な学識と専門的知識
- ・体育スポーツ科学の研究者として自立して活動できる高度な研究能力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

### コーチング科学学位プログラム

##### 《育成する人物像》

国際的な幅広い視野、高度な専門的かつ実践的能力および高い倫理観を兼ね備えたコーチあるいはコーチデベロッパーとしての資質を有するとともに、コーチング学の研究者として体育スポーツの発展に貢献できる人材を養成する。

##### 《養成される人材例》

高度なコーチング能力やマネジメント能力を有する上級コーチ

競技スポーツに関する研究者

コーチ育成者 (Coach developer)

コーチング学に関する研究者

#### ◎ 入学受入の方針 (アドミッション・ポリシー)

コーチング学の実践を通して、コーチング学を推進していく意志と資質 (研究能力、企画力など) を持ち、国内外において体育スポーツ指導、コーチング方法等に関する新しい知見を発信する意欲と能力をもつ者で、外国語運用能力を有している者。

#### ◎ 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

- ① 研究科共通科目 (必修、2単位)：自己の研究テーマをより集中的に実施し、発展させることを目的とし、より高度な研究報告演習 (英語によるものを推奨) を行なう。
- ② 専修科目 (選択必修、4単位)：コーチング学研究法を学ぶとともに、コーチ育成に関する研究の推進およびコーチ育成者としての能力を身につける。
- ③ 研究指導科目 (必修、6単位)：研究成果の国内外学術誌への投稿および掲載並びに博士論文の作成に向けた特別研究指導を受ける。

#### ◎ 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに博士 (コーチング科学) の学位を授与する。なお、博士論文の審査基準については別に記載する。

- ・体育スポーツ科学に関する幅広く、かつ高度な学識
- ・コーチング学に関する高度な学識と専門的知識
- ・体育スポーツ科学あるいはコーチング学の研究者として自立して活動できる高度な研究能力
- ・コーチ育成者としての高度な能力および研究能力
- ・国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力



## 教育学研究科が定める3つの方針

### ◎ 入学受入方針 (アドミッション・ポリシー)

#### 【博士前期課程】

博士前期課程では、小学校教諭専修免許状の取得を目指して、各教科に「授業実践」を積極的に展開していく。また、この実践を通じて見いだされた新たな課題を解決し、絶えず授業の改善に努めようとする自立的実践研究力を育成する。

教育現場、とりわけ小学校における教科 (国語、社会、算数、理科、体育) の学習指導について、その専門性を備え、あわせて実践的な研究に意欲をもって臨める人材を受入れる。また、本研究科 (博士前期課程) において、実践的指導力を更に高め、社会の急速な進展の中、教員としての探究力を有し、知識や技能の刷新のために常に「学び続ける教師」や理論的裏付けに基づく「実践的な教育力」を備えた資質の高い指導者を目指す者を求める。

#### 【博士後期課程】

博士後期課程では、世界的な視野をもって各教科の教育課程を眺め返し、その理論と具体的な学習指導とを往還させ、教育課程をもとにした学習指導レベルでの実践的検証力の育成を目指す。

実践的検証力を育成するにあたって、各教科においてカリキュラムに関する理論と学習指導とを往還する分野において新しい研究領域を見いだす力とそれを解決していくための論理構成力の育成も目指す。

教育現場、とりわけ小学校における教科 (国語、社会、算数、理科、体育) の学習指導について、その高い専門性を備えた人材を受入れる。

また、本研究科 (博士後期課程) において、世界的視野で各教科の教育課程をもとにした指導について実践的検証力を高めるとともに、各教科の理論と学習指導において新たな研究領域を見いだそうとする意欲を有し、「実践的な教育力」及び「論理構成能力」をもつ資質の高い指導者を目指す者を求める。

### ◎ 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

#### 【博士前期課程】

教科の共通性や固有性をもとに、自己の実践を絶えず改善していく研究方法やその「すべて」を獲得できるようにするため、教育活動の具体的な場である各教科の授業実践を行い、その実践から課題を見だし、その課題を解決していくという、絶えることなく授業改善を行う能力の育成ため、以下のようなカリキュラムを編成した。各教科共通の基盤となる教科基盤科目、教科の共通性をもとにした必須教科共通科目、教科の固有性をもとにした教科選択科目の3種に大別し、編成した。

1. 教科基盤科目では、教科の成立基盤や教科区分、教科の本質、人間性の育成などから、各教科の本質にもとづく、学習指導の構成について理論と実践の両側面深く学ぶ。
2. 教科の共通性をもとにした必須教科共通科目では、各教科において学習指導レベルで目標や学習指導、評価に関する優れた実践について深く学ぶ。
3. 教科の固有性をもとにした教科選択科目では、自分が選択する教科において学習指導レベルで目標や学習指導、評価に関する構成方法について深く学ぶ。

#### 【博士後期課程】

教科における学習指導あるいは授業を研究の基盤とし、かつ新しい見地からの教科教育学の構築を目指すとともに、世界的視野で各教科における教育課程に関する理論と具体的な学習指導とを往還させ、教育課程をもとにした学習指導レベルの実践的検証力を育成するため、次のような教育課程を編成した。博士論文を作成するための基礎的能力を育成するカリキュラム開発講義と、博士論文そのものを作成するためのカリキュラム開発特別研究の2つに大別し、編成した。

1. カリキュラム開発講義では、典型的な論文に関して論文を作成する技法などを深く学ぶ。
2. カリキュラム開発特別研究では、博士論文を作成するため、未開発の領域の見だし方や論文の論理構成などを深く学ぶ。

### ◎ 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

【博士前期課程】 所定の単位を修め、次に述べる能力を備えた学生に修了を認定して学位を授与する。

これらの教師は、学び続ける教師と学校現場のニーズに応え得る実践性を備えた教員養成が必要となる。このため、小学校専修免許状とともに、授業実践を行い、その実践から課題を見だし、その課題を解決し、絶えず授業改善を行うという自立的実践研究力を有することを目的とした。具体的には、以下の3点に整理できる能力を有することを修了要件とする。

1. 各教科の授業実践を通して自己の実践を絶えず改善していく研究方法を獲得することによって学び続ける能力を有していること。
2. 各教科の授業実践を通して自己の実践を絶えず改善していく「すべて」を獲得することによって絶えず授業改善を行う能力を有していること。
3. 各学校やJICAなどで活躍できる能力を有していること。

【博士後期課程】 所定の単位を修め、次に述べる能力を備えた学生に修了を認定して学位を授与する。

各教科におけるカリキュラムは、学習指導レベルで具現化できるので、世界的視野で各教科における教育課程に関する理論と具体的な学習指導とを往還させ、教育課程をもとにした学習指導レベルでの実践的検証力を有することを目的とした。具体的には、以下の2点に整理できる能力を有することを修了要件とする。

1. 実践的検証力を育成するにあたって、各教科においてカリキュラムに関する理論と学習指導を往還する分野において新しい研究領域を見いだす力とそれを解決していくための論理構成力を有すること。
2. カリキュラムスペシャリストとして教職大学院などの大学教員で活躍できる能力を有すること。

## 保健医療学研究科修士課程が定める3つの方針

### ◎ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、柔道整復学や救急・災害医療学における専門知識・技能・問題解決能力を有し、かつスポーツ救急に関する指導能力を備えた人材の育成を目指す。そこで、共通科目や専門科目を履修するにあたり、次のような資質を備えた入学者を求める。

1. 医療人としての倫理観を持ち、社会に還元する研究に取り組む意欲と能力を持つ者
2. 専門分野に関する基本的な知識・技能・問題解決能力を有し、EBMの重要性を認識している者
3. 将来、スポーツ救急に関する指導者として活躍していく意欲と能力を持つ者

### ◎ 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幅広く深い学識の涵養を図り、スポーツ救急に関する指導能力、教育研究者としての卓越した能力を培うために、本研究科は以下の方針で理論的知識を基礎とし、「新時代の大学院教育」に記載されている課程制大学院制度に沿った教育目標を設定し、臨床現場や教育研究において実践・応用する能力が身に付く体系的なカリキュラムを編成する。

1. 高度専門職業人として習得すべき知識と基礎医学に立脚した問題解決能力を養成するために必要な科目を共通科目として配置する。
2. スポーツ救急に関する実践力及び指導力を養成する科目を必須科目として配置する。
3. スポーツ救急に関する指導者、教育研究者として、医学の進歩に適切に最新の医科学的知識と技術の修得に向けた専門科目を配置する。
4. 研究課題に対して科学的根拠に基づき検証する研究方法および発表能力を修得し、論文を作成・発表する能力を養成するための特別研究を配置する。
5. 医療人、研究者および教育者としての高い倫理観の醸成は欠かせないため、共通科目、両コースの専門科目および特別研究の科目の中で医療人としての倫理、研究者としての倫理、教育者としての倫理に関する講義を実施する。

### ◎ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科では、大学の教育理念に基づき、総合的な医療人としての高い倫理観と高度な専門知識・技能・問題解決能力を有し、スポーツ救急に関する指導者や教育研究者となる人材の育成を目的としている。以下の要件を満たす者に学位を授与する。

1. 最新の医学や社会情勢を常に学ぶ姿勢を有し、研究課題に取り組むことができる。
2. 柔道整復学や救急・災害医療学における専門知識・技能・問題解決能力を有し、科学的根拠に基づく医療を実践できる。
3. 臨床現場における技術指導や研究方法を指導できる。

## 保健医療学研究科博士課程が定める3つの方針

### 運動器柔道整復学専攻

### ◎ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

- ア. 態度・志向性
- ① 柔道整復を实践する高度専門職業人として必要な高い倫理観と豊かな人間性を備えている者。
  - ② 柔道整復の特性を活かして健康寿命の延長に貢献しようという強い意志のある者。
  - ③ 将来、柔道整復の教育者、研究者、臨床現場の指導者になりたいと強く志望する者。

- イ. 姿勢・思考
- ① 生涯学び続ける姿勢を持ち、最新の知見・技術の獲得を怠らない者。
  - ② 専門性を高めることに努め、科学的根拠に基づいて柔道整復術を実践しようとする者。

- ウ. 知識・技能
- ① 柔道整復師として基礎的な基礎医学及び臨床医学の知識を備えている者。
  - ② 柔道整復師として基本的な臨床実技能力を備えている者。

### ◎ 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ア. 柔道整復の臨床現場で生じる研究課題に対して科学的根拠に基づき検証する研究方法および発表能力を修得し、論文を作成・発表する能力を養成するため、特別指導科目として特別演習及び特別研究を配置する。
- イ. 運動器外傷の施術と予防に関する臨床研究を遂行するための前提となる最新の医科学的知識と技術の修得及び高度専門職業人として習得すべき知識と基礎医学に立脚した問題解決能力を養成するために必要な専門科目（専門分野）を配置する。
- ウ. 医療分野の教育者としての豊かな人間性、高い教育力と倫理観の醸成は欠かせないため、柔道整復領域の指導者・教育者の資質を養成する専門科目（専科教員養成科目）を配置する。
- エ. 開発途上国の人々の健康の維持・増進やスポーツ活動における外傷・障害に対する施術や発生予防の指導等により国際社会に貢献するため、開発途上国における医療現場及びスポーツに対する医療サポートの現場での実習科目を選択科目として配置する。



### ◎ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ア. 知識・理解
- ① 我が国の伝統医療である柔道整復術に関する歴史的背景、関係する法律を理解している。
  - ② 柔道整復術の高度専門職業人として運動器疾患に関する高度の知識を身につけている。
  - ③ スポーツによる運動器及び健康寿命への影響について高度の知識を身につけている。
- イ. 分野固有の能力
- ① 運動器外傷・障害に関する臨床研究を自律的に継続して実施し、柔道整復領域の学術的基盤の構築に寄与できる。
  - ② 健康寿命の延長に貢献するため、運動器の抗老化（アンチエイジング）を安全かつ効果的に実施する運動プログラムを立案、指導することができる。
  - ③ 柔道整復の施術所（接骨院・整骨院）の社会的役割を創造し、健康寿命の延長に対する臨床研究の成果を地域に還元することができる。
  - ④ 開発途上国の医療・スポーツ分野において柔道整復の特徴を活かして活躍できる。
  - ⑤ 柔道整復領域の教育、臨床、研究をシームレスに連結し、柔道整復師養成における教育手法やシステムを開発・検証することができる。
- ウ. 汎用的能力
- ① 柔道整復領域の教育者あるいは研究者として高い倫理観に基づき、主体的に問題を解決できる。
  - ② 優れたコミュニケーション能力や協調性を有し、医療・福祉・スポーツ分野等の関連する職種と連携することができる。
- エ. 態度・姿勢
- ① 柔道整復領域の教育者・研究者として高い倫理観、豊かな人間性と生涯学び続ける姿勢を持っている。
  - ② 柔道整復術の実践により健康寿命の延長に医療の立場から貢献するという強い意志を持っている。
  - ③ 最新の知見・技術の獲得を怠らず、専門性を高めることに努め、科学的根拠に基づいて柔道整復術を実践する姿勢を身につけている。

## 救急災害医療学専攻

### ◎ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

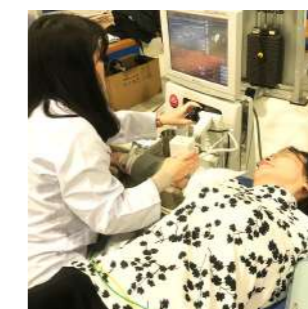
- 本専攻は、救急災害医療分野における極めて高度な専門性を備えた人材の育成を目指す。以下のような資質を備えた入学者を求める。
- ア. 最新の医学や社会情勢を常に学ぶ姿勢を有し、自ら研究課題に取り組む意欲がある者。
- イ. 救急災害医療学における専門知識・技能・問題解決能力を有する者。
- ウ. 臨床現場における技術指導者や研究方法の指導者になりたいと強く志望すること。
- エ. 国際的な視点を持ち、優れたプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する者。

### ◎ 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ア. 救急災害医療学分野の研究者として最新の医科学的知識と社会情勢を学ぶために、救急災害医療学特講を配置する。
- イ. 国際情勢を踏まえた各専門領域における最新の知識や技術に加え、社会の発展に寄与するために必要で専門的な研究手法と研究倫理について学ぶために、救急災害医療学演習、スポーツ救急特講、国際救急・災害システム演習を配置する。
- ウ. 救急災害医療学における研究課題に対して科学的根拠に基づき検証し、諸外国との国際的な比較をしながら自立して研究活動を実践するための特別指導科目として特別研究・特別演習を配置する。
- 救急災害医療学専攻では、幅広く深い学識の涵養を図り、救急災害医療分野における研究者としての卓越した能力を培うために、本専攻は上述の方針で理論的知識を基礎とし、「新時代の大学院教育」に記載されている課程制大学院制度に沿った教育目標を設定し、臨床・教育現場で自立して研究活動ができる体系的なカリキュラムを編成する。

### ◎ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ア. 最新の医学や社会情勢を常に学ぶ姿勢を有し、自立して研究活動を行う能力。
- イ. 国際的な視野と高い倫理観を有し、社会の発展に貢献できる能力。
- ウ. 救急災害医療に携わる医療人としてのプロフェッショナル・オートノミーを有し、研究成果を国内外に向けて発信する能力。



修士学位論文題目 令和2年度(2020年度) 修了生

【体育科学研究科】(一部)

スポーツ文化・社会科学系
スポーツによる地域活性化に関する学説的研究
トレーニング科学系
体操競技のゆか種目における後方伸身宙返り4回ひねり「Shirai/Nguyen」を成功させるためのバイオメカニクスの要因
関東大学サッカーリーグにおけるパフォーマンス分析を用いた戦術トレーニング課題の抽出
野球投手の全力投球における球速と運動学的特徴との関係－個人間および個人内分析所見の比較－
クライミング競技者におけるACTN3遺伝子R577X多型、ACE遺伝子I/D多型およびMCT1遺伝子T1470A多型の頻度に関する検討
健康科学・スポーツ医科学系
月経周期が運動時における緑茶抽出物の脂質酸化作用に与える影響
認知機能レベルにおける動脈ステイフネスおよび体力の比較
レジスタンスエクササイズにおける収縮回数が筋タンパク質合成および筋肥大に及ぼす影響
大学陸上長距離競技選手を対象とした腰椎椎間板変性の発生割合と発生要因の検討
スポーツ教育・健康教育学系
体育科における「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指した研究の動向－21世紀の小学校における授業に着目して－
小学校高学年のベースボール型における攻撃時の状況判断に関する研究
子どもの電子メディア至適利用に向けたピアエデュケーションの試み－ある中学高等学校の保健委員会の取り組み－
中学生におけるスマートフォン使用に関する家庭内ルールの必要性～2019年と2020年長期休校期間後に実施した調査結果からの検討～
コーチング学専攻
ビーチバレーボールにおけるコーチの指導方法に関する研究：文献レビューとインタビュー調査
大学運動部活動を行う学生のリフレクションが競技力向上に与える影響－トップアスリートのGROWモデルを参考に－
日本におけるコーチデベロッパーの役割認識
競技パフォーマンスを短期間で上げる指導法
レスリング競技におけるインターバル中のアドバイスに関する研究
水球競技における巻き足の能力の評価に関する研究
大学男子テニス選手のサーブ動作の分析にもとづく技術的課題の抽出
日本スポーツ協会認定コーチデベロッパーのロールフレームの変化
競泳女子平泳ぎ選手におけるパフォーマンス分析を活用した事例研究
パフォーマンス・プロファイリングを活用した水球の状況判断能力のトレーニング

【教育学研究科】

体育科教育
小学校4年生ゴール型ゲームの思考・判断に関する事例的研究
陸上運動（走・跳）における児童の運動リズムの認知・制御とその手段との関係についての研究
小学生の好意的態度を高める体育授業に関する分析的研究－動機づけ雰囲気及び目標志向性に着目して－
小学校3年生のマット運動における「運動に関する理解」についての検討－「オノマトペを用いたルーブリック」に着目して－
中学校体育授業における社会的自己制御能力に関する研究－ASKSモデルを用いて－

【保健医療学研究科】

高度実践柔道整復師コース
接骨院の展開要因に関する医療人類学的研究－柔道整復師の価値観に着目して－
救急災害医療学コース
救急活動に占める救急救命士が行う特定行為に要する時間の検討
ファーストレスポンスによる止血帯トレーニングの技能の評価～止血帯の種類による止血手技の比較～
救急救命士国家試験における状況設定問題と口頭試験の関連性
早期応急救護実現のためのジオグラフィック戦略の構築
救急医療学科学生におけるVirtual Realityを活用したシミュレーション実習の有用性

博士学位論文題目 令和2年度(2020年度) 修了生

【体育科学研究科】

スポーツ文化・社会科学系
スポーツボランティア活動における大学生ボランティアのマネジメントに関する研究
トレーニング科学系
日本人体操選手のイメージトレーニングに関する研究
空手道選手における事象関連電位を用いた突き技の情報処理能力に関する研究
日本人一線級テニス選手におけるドップラー・レーダー追跡システムを用いたサーブ時のボール速度と回転数の関係
健康科学・スポーツ医科学系
持久性アスリートにおける心室-動脈連関が最大酸素摂取量に及ぼす影響－左室、中心動脈および末梢動脈の役割－
スポーツ教育・健康教育学系
体育授業における個人ベースのゲームパフォーマンス評価－小学校のゴール型を対象として－
日本の子どもにおける余暇の実態とその充実に向けた方策に関する研究
コーチング学専攻
男子スケルトン選手のスタート動作の改善に関する研究：一流選手のスタート動作の分析と即時フィードバックの効果

【教育学研究科】

理科教育学
小学校理科における連関性のある問題解決過程に関する分析的研究
理科学習の意義の認識が動機づけ向上に及ぼす影響-科学的能力に着目して-
国語教育学
社会文化的な文脈に着目した読みの交流の学習デザイン
「読むこと」の学習指導論の研究－「トンネル式読解」の場合－
体育科教育学
大学の体育科長期研修における現職教員の成長に関する実証的研究





# 日本体育大学の設備・環境

スポーツを軸とした学びを支える環境を完備した東京・世田谷キャンパス、  
公式大会で使用できる施設を設置したスポーツのメッカ横浜・健志台キャンパス、  
日体大の有する2つのキャンパスは体育・スポーツとその科学を支える、最前線の施設・環境を整えています。

## 東京・世田谷キャンパス Tokyo Setagaya Campus

### スポーツを軸とした学びを支える“国際水準”の環境

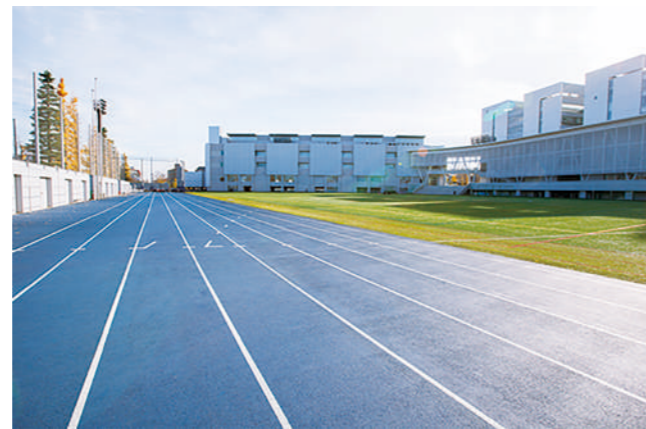


桜並木と小川に沿った閑静な住宅街にあり、学生が落ち着いて学びに取り組める東京・世田谷キャンパス。都心からも近く、日本の体育・スポーツとその科学を支えるにふさわしい設備・環境を備えています。

また、日体大が文化としての体育・スポーツを国内外に発信し、広く社会に貢献するための情報センターの役割も担っています。



多目的グラウンド：東京ドームと同じ人工芝の上に各種競技用のラインが引かれ、さまざまな競技が実施可能なグラウンド。100m 走路も併設されています。



100m 走路：目に優しく心理的に落ち着きをもたらすといわれているブルータータンを採用。



メインアリーナ：部活動や式典など、多機能スペースとして活用。通常は電動間仕切りで2つの空間に区切られ、バスケットボール部やバレーボール部などが使用。



中体育館（体操場）：写真の体操場をはじめ、小体育館と中体育館、合わせて14の体育館を完備。それぞれの部が快適に活動できるよう、こだわりが随所に盛り込まれています。



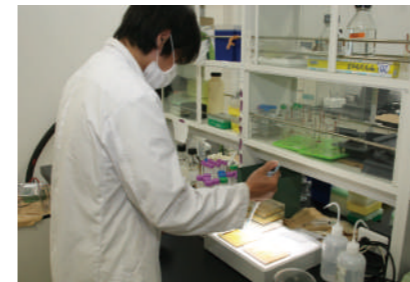
多目的プール：中体育館3つとともに、スポーツ棟の地下に併設。短水路 25m が7レーン設けられています。



中央測定室：約400平米ほどの広さがあります。中央にはタータン、周囲にはキャットウォークが配置され、様々なバイオメカニクスの測定が可能です。筋力測定装置なども配置されており、多用途利用が可能な測定室です。



自習室：学生が文献を精読したり、自分自身の学位論文を作成する部屋です。



生化学実験室：血液および組織の生化学的検査、病理学的検査、遺伝子検査などを行う部屋です。



MRI室：主に筋肉の形状あるいは体組成などを非侵襲的に測定し、研究するために使用されます。



スポーツトレーニングセンター：年間で延べ10万人以上も人間が利用。トップアスリートの競技力向上や、学生の基礎体力づくりの理論・実践の研究に活用されています。



スポーツカウンセリングルーム：心理的な測定が行われる部屋です。



人口気候室：温度、湿度を任意に変化させることが出来ます。室内に埋め込み型のトレッドミルが設置されていて運動が可能な部屋と、安静時の測定が可能な部屋の二つの部屋があります。



動物飼育実験室：実験用小動物（マウス・ラット）が飼育可能な部屋です。



図書館：体育スポーツ関連の専門書は日本一の蔵書数を誇り、学外の利用者も多いのが特徴です。



# 日本体育大学の設備・環境

横浜・健志台キャンパス Yokohama Kenshidai Campus

公式大会で使用できる施設・設備を有するスポーツのメッカ



東京・世田谷キャンパスの4倍以上の敷地面積で、豊かな緑に囲まれた約17万㎡もの広大なキャンパス。

敷地内には、教室や研究室をはじめ、4棟の体育館や陸上競技場、プール、専用競技場など、各種体育・スポーツ施設が点在。トレーニングセンターや合宿寮なども備え、スポーツに打ち込むのに最適な環境です。



横浜・健志台キャンパス9号館(保健医療学研究科):主に保健医療学研究科の学生が学ぶ校舎です。



臨地実習室:救急医療に関するさまざまなシミュレーション実習を行います。



スポーツ・ケアセンター:安心して全力でスポーツに取り組むために平日はもちろん、日・祝祭日も診療しています。



プール

屋外温水プールで、競泳・水球用の50mと、水深5mの飛び込み専用プールがあります。ダイビングの事前実習時にも使用されます。



第一体育館

最も多くの先輩たちが汗を流してきた伝統ある体育館です。柔道場も併設されています。



米本記念体育館(第Iアリーナ)

2階部分は可動式の観覧席で、1,500人を収容可能。普段は収納され、走路として使用されています。米本記念体育館には第Iから第IIIまでの3つのアリーナを併設。



米本記念体育館(第IIアリーナ)

第IIアリーナの床面は、使用目的によって硬さを調整できる特殊な構造になっています。体操の授業などで使用され、体操部が活動しています。



体操競技館

体操競技専用の体育館。大学としては全国レベルの充実した施設で、公式試合に使用されるものと同様の器具が揃っています。



陸上競技場

国内大会が開催できる公認施設。全面にフルトラックを採用し、全天候型の400mトラックやナイター設備も完備しています。



米本記念体育館(第IIIアリーナ)

半面はレスリング場として専用のマットが敷いてあり、もう半面は多目的スペースとして使用されています。レスリングや剣道の授業などで利用されています。



ゴルフ教場

2017年4月にリニューアルしたゴルフ練習場。14打席が設置され、バター練習場も併設しています。



スポーツトレーニングセンター

多くの人が待たずに一度で利用できるよう、豊富な種類のマシンを数多く設置しています。



1402教室

扇形に広がる階段型の教室。授業のほか、講演会や各種イベントなど、さまざまな用途で使用されています。



ラグビー場

観客席や更衣室・シャワー室が設置されたクラブハウスもあります。



アーチェリー場

公式戦にも対応した90mの射場です。防音・防風・防雨対策が施され、天候にかかわらず、いつでも練習が可能です。



野球場

キャンパスの奥に併設された野球グラウンド。観戦用スタンドやナイター設備も完備され、首都大学野球リーグの開催球場としても使用されています。



■ 在籍者数(2021年5月1日現在)

			在籍者数								
			1年次		2年次		3年次		計		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男女計
体育科学研究科	体育科学専攻	博士前期課程	20	12	19	11			39	23	62
		博士後期課程	13	6	7	4	7	2	27	12	39
	コーチング専攻	博士前期課程	15	2	13	8			28	10	38
		博士後期課程	3	2	1	1	4	3	8	6	14
	体育科学研究科 合計			51	22	40	24	11	5	102	51
教育学研究科	実践教科教育学専攻	博士前期課程	3	1	3	2			6	3	9
		博士後期課程	3	0	1	5	7	2	11	7	18
	教育学研究科 計			6	1	4	7	7	2	17	10
保健医療学研究科	保健医療学専攻	修士課程	7	2	4	2			11	4	15
	運動器柔道整復学専攻	博士課程	1	1	1	1			2	2	4
	救急災害医療学専攻	博士課程	4	0	2	0	0	0	6	0	6
	保健医療学研究科 計			12	3	7	3	0	0	19	6
合計			69	26	51	34	18	7	138	67	205

■ 就職状況(H30~R02)

体育科学研究科、教育学研究科 博士前期課程

就職先	体育科学研究科 体育科学専攻			体育科学研究科 コーチング専攻			教育学研究科			
	R2	R1	H30	R2	R1	H30	R2	R1	H30	
教員 (非常勤を含む)	大学教員(短大含む)	7	5	10	2	1	-	0	0	1
	高等学校教諭	2	4	1	2	0	-	0	2	0
	高等専門学校教諭	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	中学校教諭	3	2	0	0	0	-	1	1	0
	小学校教諭	1	0	1	0	0	-	3	1	4
	養護教諭	0	0	0	0	0	-	0	0	0
	特別支援学校教諭	0	1	1	0	0	-	0	0	0
	その他(学習指導補助等)	0	0	1	0	0	-	0	0	0
官庁、教育委員会、公務員等	0	1	0	0	0	-	0	0	0	
スポーツ関係団体等	2	1	0	1	1	-	0	0	0	
進学(博士課程)	6	6	8	3	1	-	0	1	3	
一般企業・団体・教育機関	3	2	4	4	3	-	0	0	2	
海外(教員・企業・団体等)	0	0	0	0	0	-	0	0	0	
その他(競技継続、運動部コーチ等)	0	0	1	1	7	-	0	0	0	
非就職	1	1	0	1	0	-	0	1	0	
未決定	4	0	1	3	2	-	1	0	0	
未報告	0	0	1	0	1	-	0	0	0	
修了者合計(満期退学含む)	29	23	29	17	16	-	5	10	-	

<体育科学研究科体育科学専攻の主な就職先>

日本体育大学、東京都立大学、神奈川県立大学、千葉県立大学、学校法人東京福祉大学、学校法人法政大学  
 国立大学法人東京医科歯科大学、コナミスポーツ株式会社、関東ラグビーフットボール協会

<体育科学研究科コーチング専攻の主な就職先(過去2年)>

日本体育大学、中京大学、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人東京都体育協会、  
 旭化成株式会社、日野自動車株式会社など

<教育学研究科の主な就職先(過去3年)>

日本体育大学、東京都立大学、神奈川県立大学、埼玉県立大学、宮城県立大学、熊本県立大学、  
 東京都市大学付属中学校・高等学校、マーケティング、スマド など

<主な進学先(過去3年)>

日本体育大学大学院

体育科学研究科、教育学研究科 博士後期課程

就職先	体育科学研究科			教育学研究科			
	R2	R1	H30	R2	R1	H30	
教員 (非常勤を含む)	大学教員(短大含む)	10	10	7	3	3	-
	高等学校教諭	0	0	0	2	0	-
	高等専門学校教諭	0	0	0	0	0	-
	中学校教諭	0	0	0	0	0	-
	小学校教諭	0	0	0	2	1	-
	養護教諭	0	0	0	0	0	-
	特別支援学校教諭	0	0	0	0	0	-
	その他(学習指導補助等)	0	0	1	1	0	-
	官庁、教育委員会、公務員等	0	0	0	0	0	-
	スポーツ関係団体等	2	0	0	0	0	-
進学(博士課程)	0	0	0	0	0	-	
一般企業・団体・教育機関	0	2	0	1	1	-	
海外(教員・企業・団体等)	0	0	0	0	0	-	
その他(競技継続、運動部コーチ等)	0	0	1	0	1	-	
非就職	0	1	0	0	0	-	
未決定	0	0	0	0	0	-	
未報告	0	1	1	1	0	-	
修了者合計(満期退学含む)	12	14	10	10	6	-	

<体育科学研究科の主な就職先>

日本体育大学、松山大学、静岡産業大学、洗足こども短期大学、東京成徳大学、多摩大学  
 株式会社ミキハウス、株式会社エスパルス

<教育学研究科の主な就職先>

東京都立大学、神奈川県立大学、埼玉県立大学、岐阜県立大学、神戸女子大学、松本大学、国立教育政策研究所  
 朝霞地区医師会立朝霞看護学校、学校法人東京福祉大学

保健医療科学研究科

就職先	保健医療学研究科 (修士課程)			保健医療学研究科 (博士課程)		
	R2	R1	H30	R2	R1	H30
大学教員(助手含む)	2	2	-	-	-	-
消防(救急救命士)	0	0	-	-	-	-
医療機関(救急救命士)	1	0	-	-	-	-
整骨院、接骨院(柔道整復師)	0	0	-	-	-	-
一般企業	1	1	-	-	-	-
公務員(警察、行政等)	0	0	-	-	-	-
進学(博士課程)	1	3	-	-	-	-
海外(教員・企業・団体等)	1	0	-	-	-	-
非就職	0	0	-	-	-	-
未決定(科目等履修生含む)	0	0	-	-	-	-
未報告	0	2	-	-	-	-
修了者合計(満期退学含む)	6	8	-	-	-	-

<修士課程の主な就職先>

日本体育大学、日本医科大学付属病院、株式会社フィリップス・ジャパン

<修士課程の主な進学先>

日本体育大学大学院

<博士課程の主な就職先>

令和5年3月に一期生が博士課程を修了する予定です。

